

関西シニア海事研究会 (K シニア) 2023年度 総会・懇親会 報告

2023年8月20日
関西シニア海事研究会

1. 日時： 2023年7月15日(土) 13:00 ~ 17:00
場所： 神戸クリスタルタワー3F クリスタルホール
参加費： ￥2,500 (オードブル、おつまみ、お茶、缶ビール等、飲食料費に充当)

2. 出席者 会員 24名

3. 内容

プログラム1 関西シニア海事研究会 総会 司会： 大柴隆士

<2023年度総会>

(1) 来賓挨拶 関西支部長： 藤田均 殿

業界の状況を少しお話しさせていただきます。 GHG削減とかAIとか、二つのキーワードが毎日のように報道されていますが、造船業界も同様に、特にGHG削減につきましては、大きな転換期に来ていると思います。 LNG、メタノール、アンモニア、水素などの新燃料による推進システムを搭載する船型を考える必要がありますし、液化水素、液化CO₂等の新しい貨物を搭載する船型も考えないといけません。 一方、電気推進とか、原子力プラントといった海洋構造物に関係するようなアイデアも出てきています。

製造現場においても効率化が緊急の課題で、これを片付けて行かねばなりません。 また、人材不足、技術者不足も深刻な問題になっています。 これから予想されます、少子化、Z世代への移行により、先輩たちが長年にわたり築かれてきた技術、知識、物作りに対する姿勢を伝承・発展させることが難しいのではないかと感じる危機感がございます。 造船海洋が魅力にあふれる世界になるよう、若者に目を向けてもらえるように、学会活動を通じて業界の活性化、人材育成を加速するような糸口を見つけられればと思っています。

Kシニア会員皆様の今後の協力をお願いしまして挨拶に代えさせていただきます。

(2) 2022年度活動及び会計報告 会長： 宝田雄次

Kシニアの会員数は、2019年度では約500名でしたが2018年度より会員資格を60歳から65歳に引き上げたために、5年間は新会員の参加が無く、現状の会員数は約430名です。 新型コロナウイルス感染拡大の影響のため総会・懇親会は開催されていませんが、幹事会は11名の幹事で4回開催しました。

グループ活動につきましては、「海友フォーラム」及び「保存グループ」は活発に活動し、その内容はホームページを通して会員に報告しています。

本会の2022年度の会計報告ですが、総会・懇親会が開催されなかったために、収入及び支出ともに、予算に比べて大幅減となり、結果93,634円の収支差額残となりました。

(3) 2023 年度活動計画及び予算 会長： 宝田雄次

本会の活動として、

- ・年次に会員の参加を得て総会を開き、会の運営やグループ活動の状況を報告すると共に、シニアライフの紹介等を通じて、会員諸氏の本会活動への理解を深め、参加者の増大に努めます。
- ・HP を拡充して会員一般への広報に努め、「シニアギャラリー」への投稿の増加を計り、広くシニアライフの充実に寄与します。
- ・他委員会からの要請があれば協力し、学会関西支部の活動にも寄与します。
- ・幹事 11 名で幹事会を構成し、会の運営に当たります。

本年度の予算は、

収入は、事業収益として、100,000 円、本部からの配分金として 115,000 円、合計 215,000 円としています。

支出は、通信運搬費 28,000 円、賃借料 75,000 円、会合費 98,000 円、会議費 6,750 円等、合計 215,000 円としています。

<グループ活動報告>

(1) 海友フォーラム 海友フォーラム会長： 濱田孝一

過去 3 回の総会が開催されませんでしたので、令和元年度から令和 4 年度の活動を報告致します。

・令和元年度

- 38 回 「九州王朝と女王卑弥呼」 井沢雄幸
- 39 回 「群像 長崎海軍伝習所—近代海軍と造船の発祥に向けて」 岡本洋
- 40 回 「改 E 型戦時油槽船の大量建造に就いて」 石津康二
- 「相生「吉田博展」その後—播磨における吉田博の足跡—」

・令和 2 年度

新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、会場にての講演が出来なくなったため、メール方式にて講演を行った。

- ・「情報の文明学」その後 城野隆史
- ・「日本救難飛行艇 US 2 と中国飛行艇 AG-600」 岡本洋
- ・「坂本龍馬の「いろは丸」」 狭山造船所 平田紘士

その他、折々の時事問題について意見・情報交換をメールにて行った。

・令和 3 年度

前年度に引き続いて、メール方式により講演及び意見・情報交換を行った。

- ・「竜馬と船と黒船の威力」 野澤和男
- ・「谷崎潤一郎「細雪」の山津波と最近の豪雨災害の比較・考察」 野澤和男

・令和 4 年度

ZOOM 方式による講演会（41 回）と、新型コロナウイルス感染も治まってきたので、会合形式の講演会（但し、会食は無し）を開催した。

- 41 回 「自動運航船 All About」「自動運航船—実用化に向けて」 並川俊一郎
- 「Nuclear Powered Ships – is it feasible?」
- 「原子力（核融合）船」

42回 「大型 PCC “Felicity Ace” の火災・沈没事故 岡本洋
リチウムイオン電池の危険性と PCC における
EV 車の取り扱い 電池をめぐる諸問題」

43回 「老人と海 Free Spirit の航海」 山中直樹

(2) 保存グループ 保存グループ委員長： 内藤林

関西支部の造船資料保存委員会として 25 名の会員と、アドバイザーメンバーとして長谷川和彦先生及び池田良穂先生の参加を得て活動しています。保存委員会が集めた資料は、本部のサーバーの中の「デジタル造船資料館」にて順次公開していますので、皆さまにアクセスして頂ければ、その活動がご覧になれます。現に「デジタル造船資料館」には、出版社等からの問い合わせも多く、関西の事務局の女性方の応援を得て対処しています。その他、最近重要な活動は、「船の科学館」の閉鎖に伴う膨大な資料の保存です。保存委員会では、船舶技術研究所に移管する各種資料の選定・精査作業を、並川委員長代理を中心にして参加・協力して参ります。関西在住の先輩諸氏にもご協力をお願いすることもあると思いますので、その時は宜しくお願い致します。また、若い退職者の方々が積極的に保存活動に参加して頂くよう、諸先輩から進言を頂ければと思っています。また、「デジタル造船資料館」には、この後発表される「ふね遺産」の第 1 回から第 6 回までの報告が掲載されていますので、興味を持ってご覧下さい。なお、総会に関しましては、3 年間開催していませんので、庶務幹事会を開いて対応して参ります。

<別途報告>

ふね遺産の報告 ふね遺産認定実行委員会委員長： 小嶋良一 殿

第 7 回のふね遺産は、令和 5 年 5 月 24 日開催の「ふね遺産審査委員会」にて、現存船が 3 隻、非現存船が 2 隻、船舶の研究関連設備が 1 件の計 6 件が決定されました。

1. 南極観測船「宗谷」

ふね遺産第 43 号（現存船第 17 号）：耐氷性、砕氷性を有する昭和期の南極観測船の嚆矢

2. 青函連絡船「八甲田丸」

ふね遺産第 44 号（現存船第 18 号）：安全性を重視した戦後第二世代の青函連絡船の先駆け

3. 青函連絡船「摩周丸」

ふね遺産第 45 号（現存船第 19 号）：安全性を重視した戦後第二世代の青函連絡船の先駆け

4. 新愛徳丸

ふね遺産第 46 号（非現存船第 11 号）：機主帆従方式による我が国初の低燃費船

5. サン・ファン・パウティスタ

ふね遺産第 47 号（非現存船第 12 号）：江戸初期の遣欧使節派遣に用いられたわが国建造の
唯一の洋式帆船

6. 船舶航海性能試験水槽

ふね遺産第 48 号（船舶の研究関連設備、機器第 3 号）：世界初の耐航性・操縦性実験用角
水槽

第 8 回の「ふね遺産」の認定作業が、10 月 10 日から 12 月 10 日にかけて行われます。皆様から、これぞと思われる「ふね遺産」がございましたら、情報をお寄せいただければ幸いです。

<私のシニアライフ>

「サンフランシスコ・シリコンバレーで見た社会システムとイノベーション文化」
—大学からスタートアップ育成システムまで— 講演者： 長谷川和彦 殿

長谷川和彦先生に上記演題にて講演を受けました。

長谷川和彦先生は、2017年に大阪大学を退職されて後、約2年間、サンフランシスコに有る大阪大学の北米拠点長を務められました。その間、様々な文化活動を見聞きし、中でも盛んな大学活動（カリフォルニア大学、スタンフォード大学等）には、カリフォルニアの開放的風土や自由な文化がその土壌にあると感じられました。

サンフランシスコ・シリコンバレーで起業家が多いのは、

1. カリフォルニアの開放的風土や自由な文化
2. 投資してくれる人（ファンド）
3. 成功の後には買収してくれる人（企業）
4. 何でも新しい物好きのユーザ

の四つの要素が揃っているためです。

日本で起業家を増やすには、「失敗を隠したがる日本、失敗を共有したがるアメリカ」、「インキュベーションシステムが素晴らしいアメリカ、箱物支援型の日本」を見直す必要があります。

プログラム2 懇親会 司会： 大柴隆士

- (1) 乾杯 井澤雄幸会員のご発声で乾杯。
- (2) 歓談
- (3) 中締め 前田俊夫会員のご発声中締め。

以上